

# ブラキムラとめぐる！仙台城下町ボヤージュ 【2022年4月12日放送分・「北材木町／跡付丁」】

毎月第1火曜日に放送しています。(今月は第2火曜日にお送りしました。)歴史家で街歩きの達人・ブラキムラこと木村浩二さんと、旧城下町に88本ある石柱＝辻標から歴史の痕跡を探る旅です。街歩きのお供には、仙台市役所1階の市政情報センターなどで販売中の冊子、その名もズバリ「辻標」が便利です。88本ある辻標の場所や周辺の歴史が、写真とともに分かりやすく解説されています。

- 私と木村さんは、城下の中心「芭蕉の辻」から奥州街道(現在の国分町通)を北上する旅の途中です。定禅寺通も越えて、杜の都信用金庫本店の建物がある交差点にやってきました。東に曲がると、仙台市役所前という通りです。
- かつては西に行けないT字路で、奥州街道はこの辻が国分町と二日町の町境で木戸が立っていたそうです。二日町は、国分町と同じく伊達氏以前にこの地を治めた国分氏ゆかりの町です。2のつく日に市が立った他にも、穀物の専売権を与えられて賑わいました。
- 戦後に通じたという西への通りを歩いて、晩翠通も越えて青葉区春日町へー。マンションと駐車場が多い住宅街の小さな十字路に、コーナー22本目の辻標「北材木町／跡付丁(あとつけちょう、あとつきちょう)」があります。
- 北材木町は、元々、今の立町界限にあった本材木町が南北に分かれたのが、今回の北材木町と、去年歩いた南材木町というわけです。名前のとおり材木商や大工、指物師と呼ばれる木工職人などがいました。木の町に通じる事から、近くに「木町通」という地名も残っていますね。また北材木町は、参勤交代など公の旅に人や馬を提供する伝馬役も担いました。

- 一方の「跡付丁」。この不思議な名前は、跡付＝宴会を盛り上げる「太鼓持ち」が住んだからと言われています。国分町という繁華街に近いこと、また奥州街道に近い交通の要衝だったことから、旅人や要人のもてなし役が必要だったのです。
- 跡付丁—今では、辻標や電柱のプレートに名前が残るだけですが、味のある地名ですね。
- 〈文・佐々木淳吾〉

